

ミニ大通
だより

果樹園(つこ)

「果物で、何が好き?」
この質問への答えだけ
は、大いに迷います。パ
ナナ、メロン、そのたび
にマイ・ブームが変わり、
ここ数年は栗と無花果。
スイカと柿も捨てきれ
ず、桃も上位にランク
グ。ああ悩ましい。

小学校、中学校の頃、
夢中になって読んでいた
『赤毛のアン』には、泉
や小さな橋のある果樹園
が出てきます。果樹園を
オーチャードというのだ



と、そこで知りました。
祖母が丹精していた畑に
は、桃や無花果、細い林
檜の木が植わってしまし
たが、みな一本ずつで、
オーチャードどころでは
ありません。下草を踏み
つつ、頭をかがめて果樹
の枝間を歩くアンの姿に
自分を重ね、うっとり
想像に耽ったものです。
ミニ大通では、クルミ
が大粒に育ってしまし
た。栗は、青く、やわら
かい毬のまま地面に落ち
ています。気まぐれな風
の仕業でしょうか。虫や
鳥たちの果樹園が賑わう
季節です。

イル・ポステイーン

大谷 薫

北4西14 ☎: 272・7277

ミニ大通
だより

月 夜

秋の、きれいな日々で
す。空は高く、空気は澄
み、やがて夕暮れ、中空
に月。もうすぐ十三夜、
栗名月ですね。

これまでで、一番印象
的な月はどれですか? 私
は、道南の小高い山の上
に建つホテルで湯舟につ
かりながら、真っ暗な湖
の向こうに昇る月を見ま
した。月からのやわらか
い光の帯が湖面をわた
り、揺れながら自分に延
びている、そんな光景で
した。いつになく謙虚に
なっていました。



京都、鴨川のほとりを
走る車から、東山連峰に
かかる冴え冴えとした三
日月を見ました。札幌に
移ると決めた夜でした。
岩見沢からの帰り、雪
原を照らしながらずっと
汽車を追いかけてくる、
可愛らしい満月がいまし
た。

ミニ大通を東向きに歩
いていると、植物園の上
空、マンシヨンと木々に
縁取られた四角い都会の
夜空に赤く、黄色く、巨大
な月が浮かんでいました。
月の話は…つきませぬ。

イル・ポステイーン

大谷 薫

北4西14 ☎: 272・7277

ミニ大通
だより

ひだまり

木の葉が舞い散る、北
風が吹く、雪がちらつ
く、背中が丸くなる。今
年もミニ大通に冬の前ぶ
れ。愛読していた『じゃ
りん子チエ』という漫画
で、人生の達人、おバア
はんが言います。「寒
い、ひもじい、もう死に
たい。不幸はこの順番で
やってきますのや。」なる
ほど。では、おでんと熱
燗で温まれば一石二鳥?



寒い、ひもじいが一挙
に解決、かも。人肌とは
よく言ったもの。この人
恋しい季節にぴったりで
すね。

芯が温まったら、次は
外から。小春日和はこの
時期の贈り物。逆境の中
のオアシス、といえます
か、ほっとする一日です。
日だまりでほーっ。毛糸
のカーディガンを通して
背中がほんわか温かい。
縁側の猫みたい。いつ
かうちに猫が来たら、名
前は「小春」にしましょ
う。機嫌の好い日には外
に出て、その温かい小さ
い体を、私のひざに乗っ
けてやりましょう。どこ
かにいる小春、待つてな
さい!

イル・ポステイーン

大谷 薫

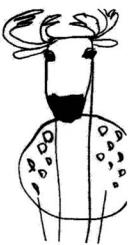
北4西14 ☎: 272・7277

ミニ大通
だより

シユハキマセリ

十二月です。クリスマス
スには雪の白布がミニ大
通りを覆っていることで
しょう。去年買ったもみ
の木は夏に枝を伸ばし、
少し見ればえよくなりまし
た。

この時期になると蘇る
苦しい出。それは、幼
稚園でならった賛美歌の
一節『主は来ませり』を
外国語だと思いこんでい
たことです。そして必
ず「シユフクイマスウエ
リー」と、めいいつぱい



の巻舌で「外国語」風
に歌っていました。先生
方のほほえみは、「誰か言
ってあげた方が…」とい
う苦笑だったに違いあり
ません。正解は「誰か言
ってあげた方が…」とい
う苦しい出。それは、幼
稚園でならった賛美歌の
一節『主は来ませり』を
外国語だと思いこんでい
たことです。そして必
ず「シユフクイマスウエ
リー」と、めいいつぱい

知恵をつけ、ひらめきを
失いながら大人になりま
した。いいの、か悪いの、か
答えは最後までわかりま
せん。恵まれていたの
は、その過程をいつも家
族や友達と分かちあって
きたことです。今年もク
リスマス・ツリーに青い
リボンを結びながら、い
ろんな人、いろんな家族
に思いを馳せています。
Merry Christmas to you

イル・ポステイーン

大谷 薫

北4西14 ☎: 272・7277

ミニ大通
だより

笑門来福、星満天

それぞれの喜怒哀楽を
こどもなげに置き去って、
新年はあなたにも私にも
やってきました。今年
はどんなドラマが待ってい
るのでしょうか。願わく
ば、笑顔の瞬間が一時で
も多くありますように。

そうは言っても、毎日
は具体性の積み重ね。恥
ずかしさ、かなしみ、悔
しさ。うつむいてしま
いそうない出は、去年も
かざりがありました。す
っかり笑いを忘れた、そ
んな日も、ミニ大通で見
上げる夜空には悠然と広
がる星空があります。



木枯らしとだえて冴ゆる
空より/地上に降りしく
奇しき光よ/ものみない
こえるじまの中に/き
らめき揺れつつ星座はめ
ぐる/ほのほの明かりて
流るる/銀河/オリオン
舞い立ちスバルはさざめ
く/無窮をゆびさす北斗
の針と/きらめき揺れつ
つ星座はめぐる

『冬の星座』ハイス作
曲堀内敏三訳詞
壮大で、やさしさに満
ちたこの歌は、いつも私
を勇気づけてくれます。
ごつが、よい一年を!

イル・ポステイーン

大谷 薫

北4西14 ☎: 272・7277